

017

MODRINAE(戻り苗)を通じて再造林の促進と森林の土砂災害リスクを軽減

取組主体

株式会社ソマノベース

従業員数

想定災害

実施地域

6人

全般

和歌山県

・植林用苗木をどんぐりから観葉植物として育てる「MODRINAE(戻り苗)」を開発・販売し、再造林を進めることで、森林の土砂災害リスクを軽減させる。若年層への「防災×森林」における課題の理解も進める。

1 取組の特徴(はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点)

「土砂災害による人的被害をゼロにする」

- ・森林の土砂災害リスクの軽減を目指し、山林活用支援事業、木育事業等を手掛ける株式会社ソマノベースは、「土砂災害による人的被害をゼロにする」という同社理念のもと、森林・林業に関心がある個人と企業のお客様に対して、「森林に関わるプロダクト・サービス」を提供する。
- ・同社代表の奥川氏は、高校時代に和歌山県にて紀伊半島大水害(2011年)で被災した経験をきっかけに、災害対策に関心を持ち、「森林×防災」の観点から会社を立ち上げることを志した。2019年より個人事業として設立、2021年に法人化を行った。

「MODRINAE(戻り苗)」を通じた森林保全・災害リスクの軽減

- ・同社は、一般顧客や顧客企業に対し、森林保全に関わるプロダクトやサービスを販売している。その販売料や企画料などから、林業事業体に森林整備の費用を一部支払い、^{かいぼつち}皆伐地(すべての樹木が伐採された森林の区画)へ再造林の補助を行う。
- ・より多くのステークホルダーを巻き込み、森林への関心を高めるために、植林用苗木をどんぐりから観葉植物として育てただけ「MODRINAE(戻り苗)」という製品を開発した。全国の様々な企業や個人に販売し、オフィスや自宅で2年間苗木になるまで育てる。育った苗木はウバメガシという樹種であり、和歌山県に植栽する。紀州備長炭の原木としても今後活用が期待される樹種である。
- ・「MODRINAE(戻り苗)」開発のきっかけは、同社代表の奥川氏が、土砂災害リスクの低減を目指すうえで、まず、皆伐地における再造林率が4割程度という事実を知ったことから始まる。皆伐したままの状態であると災害リスクがあがるという点からも、再造林を早急に進める必要があると考えた。一方で、山主・林業事業体にとって、造林はコストであることから、なかなか造林したがないという事実があることも分かった。上記の課題認識を踏まえ、一般の方から造林費用を集める仕組みを作りたいとの思いから、同製品の開発が進められた。購入する側も、観葉植物として楽しむことができる点が、同製品の魅力であり、Win-Winな構造となっている。
- ・同社は、全国10社程度の造林事業体ともつながりがある。そのため、和歌山県だけでなく、今後全国の皆伐地に対して、植栽を促すことができる点で、全国的なインパクトを生み出



MODORINAE 新しいカタチの観葉植物



企業向け林業事業体視察植林ツアーの様子

国土強靱化

す可能性もある。山主・林業事業者等の当事者だけで取り組むだけではなく、一般の顧客や企業が苗木を育て、植林まで行うことで、顧客の当事者意識を2年間（育苗期間）育てることができ、森林・防災における課題の周知にも繋がっている。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・一般の方が上手く育苗できない等の課題がある。そのため、同社では、公式 LINE や NOTE などの SNS を使用し、育苗サポートを行っている。また防災や森林についてのコラム発信、和歌山でのイベント開催なども行い、顧客と密な関係を築きながら、課題の周知に努めている。
- ・同社の「MODRINAE（戻り苗）」の取組は、特に林業に関係のない若い層が関心を持っている。そこから派生して、様々なプロジェクトが生まれた。特に、防災関係者とのコネクション、若手林業家との研究会の発足、林業や防災にはあまり接点のない業界（クリエイターなど）の若手との連携等が生まれている。
- ・同社では、2022年より大和ハウスグループ 未来価値共創センターが主催する「森林・木材未来価値共創研究会セミナー」にコーディネーターとして参画している。同セミナーを通じて若手やクリエイターに森林保全や森林産業への関心を持ってもらい、「林業を通じて土砂災害リスクの低い山林を増やす」ことにつながるための活動につなげている。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・現在の課題は、今は和歌山をメインに「MODRINAE（戻り苗）」の製造、樹種の選定、再造林（和歌山の林業事業者へ委託）を行っているが、防災の観点でみると全国で行う必要がある。そのため、全国各地にて横展開していく必要があるが、林業の担い手が少なく、造林業を行っている民間事業者があまりない。それに伴い、造林後の管理ができないという問題が発生するため横展開が難しい。今後の展望として、同社内で造林のための現場班をつくり、どの地域でも MODRINAE で集まった苗木を植林できるモデルづくりを行う。

4 周囲の声

- ・どんぐりから木ができることを知らなかった。発芽の段階から育てることで愛着が湧く。森林や防災に繋がるのもよい。（「MODRINAE（戻り苗）」購入者）
- ・どんぐり拾いや植林などに参加することで、その大変さや、森林に関わる楽しさを知った。（同社主催のイベント参加者）
- ・既存の防災や林業は、若者や関心のない人を巻き込むことがなかなかできないが、周囲巻き込み型である点がよい。（専門家）

担当者の声

- ・私たちは、災害リスクの低い山林を増やすため、「社会にいいからやろう！」ということではなく、「カッコいい」「おしゃれ」だからやるという動機を大事にしています。本当にいい製品、ほしい製品を提供するからこそ持続的であると思うからです。若者層、林業や防災業界の外に向け、これからも既存のイメージを変えながら、多くの人を巻き込んでいきたいと思えます。

問合せ先

株式会社ソマンベース 法人番号：8170001016590
TEL：080-1528-1207 E-Mail：info@somanobase.com

動画

—

サイト URL

